

# Weekly report

MINKABU  
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都千代田区九段北1-8-10

## 今週の注目材料 = 3月FOMCにむけて前回の議事要旨は？

2022年2月14日

3月の米連邦公開市場委員会(FOMC)での利上げが確実視される中、市場の注目は利上げ幅が0.25%と0.5%どちらになるのかと、3月以降どのようなペースで、どこまでの利上げが行われるのかに向かっています。

前回1月25日、26日のFOMCでは声明で利上げ開始が「近く」適切になると、3月の利上げを示唆し、バランスシートの早期縮小開始の可能性を示しました。市場の一部が期待した利上げ幅への言及などはなく、市場は思ったほどタカ派ではないという印象をいったん持ちました。しかし、その後のパウエルFRB議長の会見で、すべての会合で利上げを実施する可能性を排除しないと、今後の追加利上げが積極的なものになる可能性を示しました。また0.5%利上げの可能性については、記者からの質問に答える形で、何も決まっていないと否定しませんでした。バランスシートの縮小についても開始時期やペースは決まっていないとしながら、前回(リーマンショック後のQEに対する縮小)よりも早期で急速の可能性とするなど、声明よりもタカ派な印象を与える答弁が続きました。市場は一連の発言を受けて、0.5%の可能性を意識する形となり、年内の利上げについても従来の4回から5回以上へと見通しを引き上げる形となりました。

0.5%の利上げ見通しについては、英紙とのインタビューで可能性に言及したことで注目されたボスティック・アトランタ連銀総裁が、3月での0.5%利上げの実施が好ましいとは思わないと否定。今年のFOMCでの投票権を持つ地区連銀総裁の中で、利上げに積極的なタカ派の代表格的存在であるジョージ・カンザスシティ連銀総裁も、3月の0.5%利上げには消極的な発言を行ったことなどから、期待はいったん大きく後退しました。しかし、4日に発表された1月の米雇用統計が予想を大きく超える力強いものとなり、市場は再び0.5%利上げを意識する展開となっています。

とはいえ、実施されると2000年6月以来約22年ぶりとなる0.5%利上げのハードルは低いものではありません。2000年の利上げにしてもITバブルの中1999年から続いた利上げサイクルの最後として、一気に引き上げて利上げを打ち止めとしたもの。利上げサイクルスタートからの0.5%となると相当に異例という印象になります。

ただ、こうした状況から少数派にとどまっていた0.5%の利上げ見通しは10日の米消費者物価指数(CPI)の予想を超える強い結果を受けて期待がさらに強まっています。金利先物市場動向から算出された利上げ割合を示すCMEFedWatchでは、米CPI前まではある程度の振れがあるものの25%程度に留まっていたが、米CPI後は一気に見通しが強まり、80%を超えてきています。

こうした中、今週は16日(日本時間では17日午前4時)に1月25日、26日開催FOMCの議事要旨が公表されます。パウエル議長はタカ派姿勢を見せたとはいえ、声明ではそれほどでもなかった前回のFOMC。実際の議論ではどのような姿勢が見えたのか。0.5%利上げの可能性がどこまであるのか。今年後7回あるFOMCでどれだけの利上げを見込むべきなのか。今後の米金融政策の動向を探る上でかなり重要な材料となりそうです。

経済指標では同じく16日に発表される1月の米小売売上高が注目されることです。米GDPの約7割を占める個人消費動向を表す同指標。個人消費に大きな影響を与える雇用統計が力強い数字となった影響がどこまで出てくるかが注目されます。

市場予想は前月比+1.3%、自動車を除くコアの前月比が+0.6%と共に12月のマイナス圏から回復の期待となっています。

全体の約2割を占める自動車及び同部品に関しては、自動車価格の上昇が続いているなかで強めの数字が期待されます(台数ではなく販売額ベースで算出される小売売上高は、需要がある程度高い状況での価格上昇は小売売上高を押し上げます)。

12月に比べるとガソリン小売価格も全米全種平均で小幅上昇しており、こちらも押し上げ要因(車社会の米国ではガソリン価格がある程度上昇しても販売量には影響が出にくいです)。

予想程度の力強い数字は十分に見込まれそうです。よほど予想値から乖離しない限り、同日NY市場午後の公表となる米FOMC議事要旨までは動きにくい面があると思われるが、強めの数字が出た後に、議事要旨に前向き姿勢が示されるなど、方向性が一致した場合、動きを加速させる働きをする可能性があります。

#### 山岡和雅 | bu PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後にGCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

---

#### <免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

#### <著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。